



所長時々先生？！出前授業好評実施中

世田谷募集案内所（所長 高橋3等空佐）は、少子化や、民間の採用拡大等の厳しい募集環境と、学生の就職活動に関する動きが年々早まる状況に対応し、学生に早くから、自衛隊を将来の職業の一選択肢として認識して貰うことを目指し、積極的に部外における出前授業を実施している。今年の6、7月だけでも、中学校で1件、高校で1件、大学で2件の計4件の依頼を頂き、講演を実施させて頂いた。

話す内容も様々で、平成29年6月24日（土）に東京都市大学附属中学校で実施した「業（わざ）あり先生」の講義では、進路選択に悩む中学3年生に、今、勉強することの意味や、進路選択で迷えるだけの環境にあることの難しさ、将来のキャリアプラン等を語り、熱心に聞き入る学生からは、「一つ一つの言葉が、物凄く心に響きました。今まで漫然と過ごしてきたけれど、これからは勉強も部活も一々を大切に、精一杯頑張ろうと思えるようになりました。」と前向きな反応を得ることが出来た。同校の「業（わざ）あり先生」の講義は、昨年初参加だったが、その成果が昨年度は3名の防衛大学校入校者が出た。なお、本講演の様子は、昨年度も本年も学校のHPに写真を掲載された他、中学校の入学希望者への配布用パンフレットにも写真を掲載して頂いた。

平成29年6月30日に国士館大学政経学部で実施したキャリア・ガイダンスでは、1、2学年の政経学部公務員基礎講座履修者の約150名に対し、1時間半、講演を行った。

政経学部では、政治や経済のあらゆる事象を通じて「crisis management（危機管理）」を学んでいるということで、危機管理と自衛隊の関係性及び自衛官の仕事について、そして将来の就職活動を見据えて、今の学生の時期に心掛けて置きたいことのアドバイス等話した。これだけの規模での講演を、自衛隊に単独で依頼するのは初めてのことと、今後の教授陣や学部生との関係性を占う大事な機会を生かさそうと、これまでの経験を踏まえ、熱弁を振った。

授業の一貫ということで、自衛隊に関して様々な印象と考えを持った学生が居たと思うが、それでは講演終了時に実施したアンケートで85%超の学生から、講演に関して非常に好印象を受けたという評価を頂くと同時に、「自衛隊に対するイメージ、考え方が大幅に変わりました。」「何事も先入観で決め付けたいと思いません。」等、多数の前向きな反応を得ることも出来た。そして真剣に検討したいと思えます。」等、多数の前向きな反応を得ることも出来た。

世田谷募集案内所は今回のような取り組みを通じ、これから進路選択をする学生の心に自衛官という職業を僅かでも刻み、将来的に志してくれる人が1人でも増えるよう広報活動を実施していくとしている。



29.6.24 (土)

東京都市大学附属中学「業あり先生」講義



29.6.30 (金)

国士館大学政経学部キャリアガイダンス

「第22回なかいたへそ祭り」にて広報活動を実施

～「なかいたへそ祭り」でオートバイ、自衛隊ラッパが大好評～

東京地本北地域事務所は、平成29年7月16日、中板橋商店街において開催された「第22回なかいたへそ祭り」に広報ブースを開設した。

「なかいたへそ祭り」は、中板橋が板橋区のほぼ真ん中に位置することから名付けられた「板橋の3大祭」にあげられる祭りでも、お腹にそれぞれ好きな顔を書き、笠を被って歩きながら踊るユニークな踊りが特徴の祭りである。今年は太陽降り注ぐ炎天下の中、約4,000名の来場者があり、盛大に実施された。例年同様、開会挨拶に先立ち自衛隊ラッパ手のラッパ吹奏が行われた。隊員の高い練度の吹奏と、北地域事務所先任広報官のユニークな司会が相まって、祭りの盛り上がりが大いに寄与することが出来た。

また、広報ブースでは、熊本地震及び御嶽山における災害派遣活動のパネル展示や制服等の試着を行うとともに、第1普通科連隊第2中隊の支援を受けて、偵察用オートバイの展示及び記念撮影等を実施した。来場者の多くは家族連れであり、自衛隊広報ブースにも幼児、小学生が多く訪れた。特にミニ制服の試着と偵察用オートバイとの記念撮影が人気であったが、他団体ブースの会社員、大学生の集客にも一役買った。

来場者の方からは、日頃の訓練の激励と九州北部豪雨における自衛隊の活動に対する慰労と感謝の言葉を多数頂いた。北地域事務所は、熱意と誠意を持って広報活動に尽力し、地域との絆及び自衛隊への信頼の更なる深化を図ると決意を新たにしている。



偵察用オートバイで記念撮影